令和３年度　岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

１　調査の実施状況

（１）　調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習状況を全国比較及び経年比較することにより、教育指導や教育施策の改善を図る。

（２）　調査実施日

令和３年５月２７日（木）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、実施日を変更

（３）　受検者数・受検校数・実施教科等

※質問紙は県独自調査

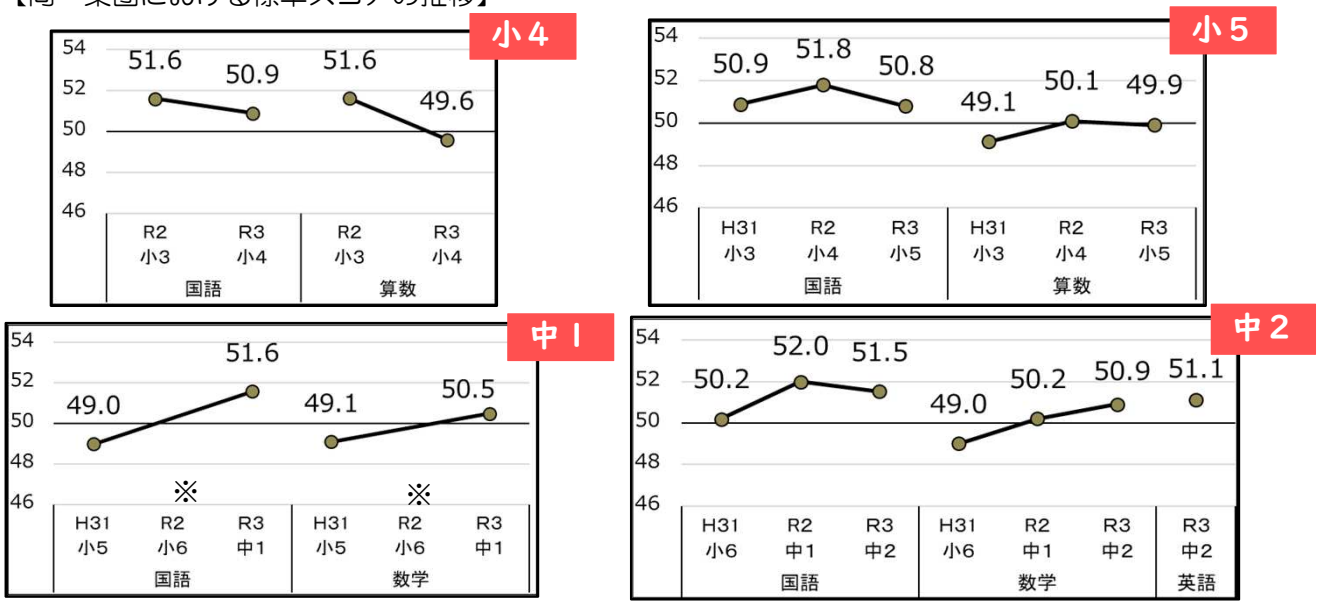
	県受検者数　（受検校数）	全国受検者数	実施教科等
小学校第３学年	9,492人　（285校）	約　8万人	国語　算数
小学校第４学年	9,601人　（286校）	約１１万人	国語　算数
小学校第５学年	9,656人　（289校）	約１２万人	国語　算数　質問紙
中学校第１学年	9,699人　（117校）	約　9万人	国語　数学　質問紙
中学校第２学年	9,611人　（120校）	約１０万人	国語　数学　英語　質問紙

２　学力調査の結果

【標準スコア】 全国の平均正答率を５０としたときの換算値

	国語					算数・数学					英語
	小学校			中学校		小学校			中学校		中学校
年度	３年	４年	５年	１年	２年	３年	４年	５年	１年	２年	２年
H３１	50.9	49.8	49.0	50.3	51.0	49.1	48.8	49.1	49.9	51.2	48.6
R２	51.6	51.8	50.6	52.0	50.1	51.6	50.1	49.7	50.2	51.1	50.5
R３	50.4	50.9	50.8	51.6	51.5	50.5	49.6	49.9	50.5	50.9	51.1

【同一集団における標準スコアの推移】



※中１のグラフのR２は、全国学力・学習状況調査を実施しなかったため、データがない。

- 小学校は、4年生、5年生の算数を除いて全国値を上回った。【同一集団における標準スコアの推移】は、全ての学年、教科において下降している。
- 中学校は、全ての学年、教科で全国値を上回った。【同一集団における標準スコアの推移】は、２年生の国語を除いて上昇している。

3　学習状況（質問紙）調査の結果（岡山県独自の調査のため、全国平均との比較はない。）

※各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま用いている。

【授業改善】

※クロス分析で用いる学力の数値は、各児童生徒の国語と算数・数学の標準スコアの平均値を用いている。

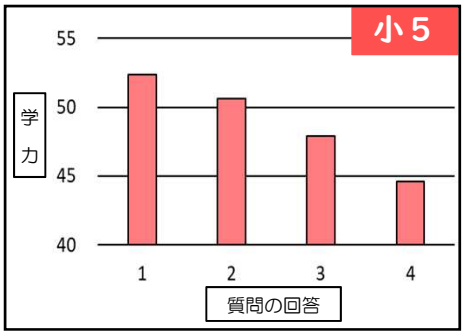
① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。（主体的な学び）

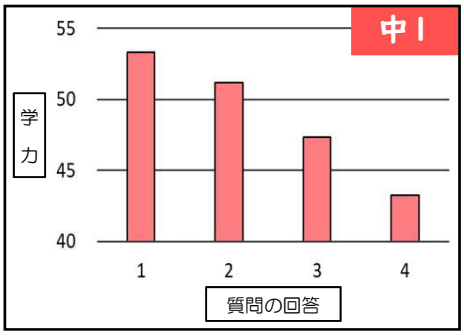
［1：当てはまる　2：どちらかといえば、当てはまる　3：どちらかといえば、当てはまらない　4：当てはまらない］

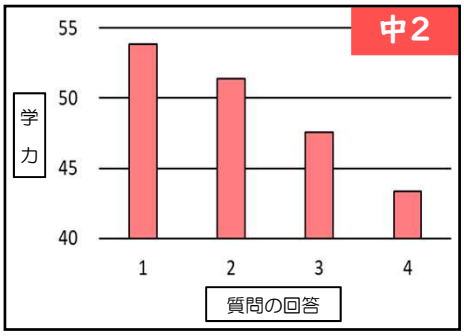
《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：%〕》

	小5	中1	中2
R2	74.9	78.8	74.9
R3	75.4 ↑	81.1 ↑	78.7 ↑

《質問の回答と学力のクロス分析》







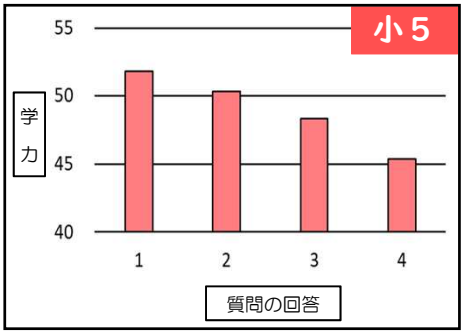
② 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。（対話的で深い学び）

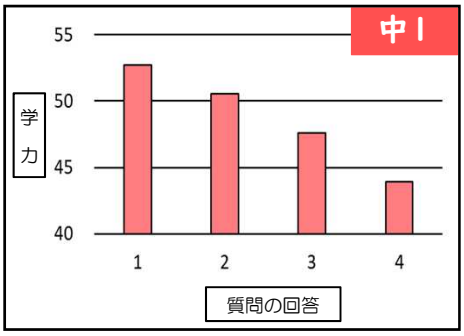
［1：当てはまる　2：どちらかといえば、当てはまる　3：どちらかといえば、当てはまらない　4：当てはまらない］

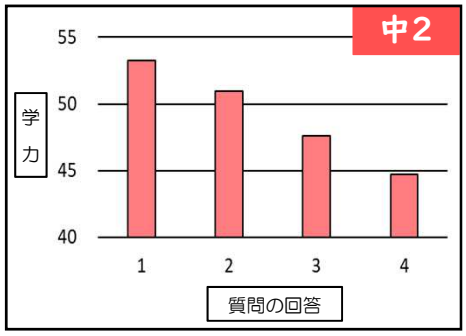
《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：%〕》

	小5	中1	中2
R2	78.5	81.0	74.6
R3	78.8 ↑	85.6 ↑	81.9 ↑

《質問の回答と学力のクロス分析》







- 《年度ごとの肯定的回答割合》は、どちらの質問においても、全学年で増加している。
- 《質問の回答と学力調査のクロス分析》では、どちらの質問においても、肯定的に回答した児童生徒の標準スコアが高い傾向が見られた。

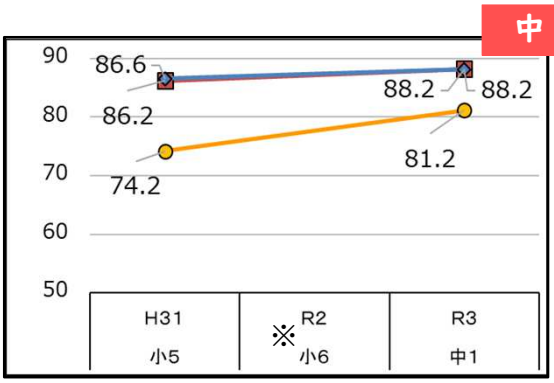
【授業理解・学習習慣】

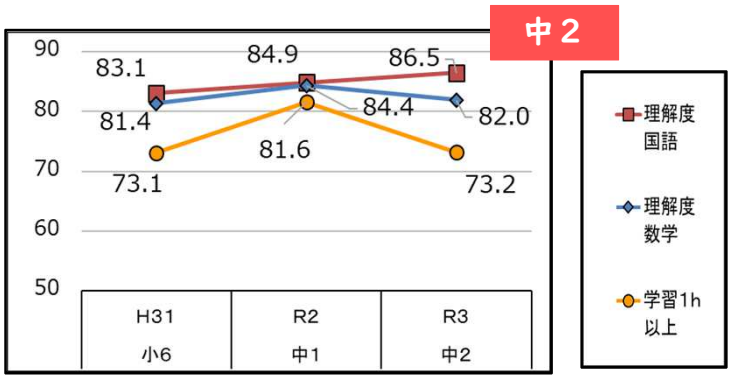
③　国語の授業の内容はよく分かる。（理解度　国語）
④　算数（数学）の授業の内容はよく分かる。（理解度　算数・数学）
⑤　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしていましたか。（学習１ｈ以上）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小５			中１			中２		
年度	理解度国語	理解度算数	学習１ｈ以上	理解度国語	理解度数学	学習1h以上	理解度国語	理解度数学	学習１ｈ以上
H３１	86.6	86.2	74.2	88.7	85.8	83.0	86.0	77.1	74.4
R２	84.3	83.2	77.2	84.9	84.4	81.6	84.3	79.9	73.6
R３	84.9 ↑	84.5 ↑	73.6 ↓	88.2 ↑	88.2 ↑	81.2 ↓	86.5 ↑	82.0 ↑	73.2 ↓

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》





※中１のグラフのR２は、全国学力・学習状況調査を実施しなかったため、データがない。

・授業理解の《年度ごとの肯定的回答割合》は、全ての学年、教科で増加している。《同一集団における肯定的回答割合の推移》は、中２の数学を除いて、上昇している。
・学習１ｈ以上の《年度ごとの肯定的回答割合》は、全ての学年で減少している。《同一集団における肯定的回答割合の推移》は、中１は上昇しているが、中2は下降している。

【夢育・自己肯定感】

⑥　将来の夢や目標を持っている。（夢・目標）
⑦　自分には、よいところがあると思う。（自己肯定感）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》　※「夢・目標」の質問は、「１：当てはまる」と回答した児童生徒の割合

	小５		中１		中２	
年度	夢・目標※	自己肯定感	夢・目標※	自己肯定感	夢・目標※	自己肯定感
H３１	73.8	82.3	61.9	80.7	45.2	75.6
R２	66.1	79.0	52.0	76.2	41.3	74.8
R３	70.1 ↑	79.6 ↑	57.8 ↑	77.6 ↑	44.3 ↑	74.8

・夢育の項目について、《年度ごとの「１：当てはまる」回答割合》は、全ての学年で増加している。
・自己肯定感の項目について、《年度ごとの肯定的回答割合》が、中2を除いて増加している。

4　設問から見える成果と課題

■　小学校国語

【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
3	7	指定された長さで文章を書いている。	69.4	62.9	6.5
4	7	段落の役割について理解し、２段落構成で文章を書いている。	53.7	47.8	5.9
5	7	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている。	66.6	52.5	14.1

【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
3	2（2）①	第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。	74.6	79.2	−4.6
4	1（1）	話し手が伝えたいことの中心を捉えている。	69.6	76.8	−7.2
5	2（2）③	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。	49.3	63.6	-14.3

- 文章を書く設問において、全ての学年で、指定された長さで文章を書くこと、２段落構成で文章を書くこと、自分の考えとそれを支える理由等を明確にして文章を書くことの正答率が、全国平均を上回った。今後も、各学校が課題意識を持ち、複数の条件に従って文章を書くなど、様々な文章を書く活動を取り入れることが大切である。
- ３、５年生では、当該学年までに学んだ漢字を書く設問において、正答率が全国平均を下回った。昨年度に続いての課題であり、定期的に復習する機会を設けるなど、既習の基礎的な知識の定着を図る取組を徹底する必要がある。
- ４年生では、聞くことの領域において、話し手が伝えたいことを捉えながら聞いているかをみる設問で、正答率が全国平均を下回った。国語科だけでなく他教科でも、必要なことを記録しながら聞いたり、内容の要約を書かせたりする場面を意図的に設定する必要がある。

■　小学校算数

【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
3	１８（２）	グラフや表から人数のちがいを読み取ることができる。	77.8	71.7	6.1
4	１５（３）	複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる。	57.2	53.5	3.7
5	１２	複合図形で，面積の求め方や図を表した式を選んでいる。	81.7	78.4	3.3

【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
3	4	もとの大きさの１／４の大きさの意味を理解している。	67.9	77.5	-9.6
4	8（２）	□を使って，乗法の式に表している。	58.8	66.1	-7.3
5	１６（２）	伴って変わる２つの数量の関係を式に表すことができる。	39.0	47.9	-8.9

- Ｈ２９年公示の学習指導要領で新たに示された「データの活用」の領域からの出題である、グラフから必要な情報を読み取る設問において、全ての学年で、正答率が全国平均を上回った。
- ３年生では、分数の意味を理解しているかをみる設問で、正答率が全国平均を下回った。この設問は、昨年度の４年生でも課題が見られており、初めて学習する２年生から、具体物を使った操作活動を通して分数の意味を児童に実感させるなど、繰り返し分数の意味や表し方の定着を図る必要がある。
- ４年生では、□を使って乗法の式に表す設問、５年生では、伴って変わる二つの数量の関係を式に表す設問で、正答率が全国平均を下回った。これらの設問は、中学校でも課題である関数に繋がる学習内容であることから、未知の数量や変数を□などの記号を用いて文脈どおりに立式したり、図や表から立式したりする活動を通して、系統的に指導する必要がある。

■　中学校国語

【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
1	2（2）①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	84.5	75.7	8.8
2	3（2）	単語について理解している。	76.0	65.1	10.9

【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
1	4（1）	叙述を基に文章の内容を捉えている。	47.8	47.3	0.5
2	7	読み取った内容を明確にして書くことができる。	55.8	56.7	-0.9

- 学年を問わず、漢字や敬語、単語、故事成語等、言葉の特徴や使い方に関する事項や我が国の言語文化に関する事項についての設問において、正答率が全国平均より高くなっている。今後も、授業や家庭学習等を通して、基礎的な漢字や語彙等の定着を図る取組を進めることが大切である。
- １年生では、叙述を基に文章の内容を捉えているかをみる設問で課題が見られた。昨年度も、構成や展開を捉えることができるかをみる設問で課題が見られた。引き続き、授業では生徒が読み取った内容をアウトプットする活動を意図的に設定し、必要な指導、支援を行う必要がある。
- ２年生では、条件に従って自分の考えを書く設問で、正答率が全国平均を下回った。二つの資料を比較して特徴を読み取ることに課題が見られたので、授業では書く活動において、目的や内容等の条件の設定を工夫する必要がある。

■　中学校数学

【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
1	6	２つの文字を使って表された式について，一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。	73.1	67.7	5.4
2	1（4）	一次式の減法ができる。	72.9	54.7	18.2

【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
1	4	分数の除法の文章問題を表した図を読み取ることができる。	63.9	68.5	−4.6
2	7	比例・反比例で x の値が変化するとき、y の値がどのように変化するかを理解している。	46.4	48.0	−1.6

- 学年を問わず、一次式の減法のような基本的な計算力を問う設問において、正答率が全国平均を上回った。今後も、基礎的な知識及び技能の定着を図る取組を継続することが大切である。
- ２年生では、比例・反比例の理解を問う設問において、正答率が全国平均を下回った。関数の領域は、経年的な課題であることから、小学校の既習内容を振り返らせるとともに、変化や対応の仕方に着目させながら関数関係の意味を理解できるようにする必要がある。

■　中学校英語

【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
2	2（3）	対話の内容を聞き取り，適切に応答することができる。（何をしたかとたずねられて）	74.1	71.3	2.8

【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率（%）		
			県	全国	差
2	11（1）	与えられた情報に基づいて，３人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。	28.0	29.4	−1.4

- 経年的な課題であった、対話の内容を聞き取り、適切に応答することができるかをみる設問において、正答率が全国平均を上回った。今後も、授業の中で相手の質問に対し、自分の考えなどを答えるなどの言語活動を積極的に取り入れることが大切である。さらに、書く力を育成するために、コミュニケーション後に対話文を想起し書く活動などを取り入れることも考えられる。
- 友人の所属する部活動を書く設問において、正答率が低かった。部活動(soccer team)の単語の前に付く前置詞や “a member of ～”の表現などの定着に課題が見られることから、コミュニケーションの目的や場面、状況等を設定して文を書かせることを授業の中に位置付けたり、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせたりするなどの指導を繰り返す必要がある。

【参考】岡山県学力調査　市町村別の状況

○　学力調査の結果　標準スコア（教科別）

名称		小学校						中学校				
		３年		４年		５年		１年		２年		
		国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	国語	数学	英語
岡山県（岡山市を除く）		50	51	51	50	51	50	52	50	51	51	51
2	倉敷市教育委員会	51	51	52	51	51	51	51	50	51	50	51
3	津山市教育委員会	51	51	52	50	51	50	50	49	50	50	49
4	玉野市教育委員会	48	48	49	47	48	47	49	49	49	49	49
5	笠岡市教育委員会	50	50	51	50	50	50	50	49	51	51	51
6	井原市教育委員会	50	51	51	49	50	50	52	50	52	52	52
7	総社市教育委員会	51	52	52	51	52	52	51	50	52	51	51
8	高梁市教育委員会	49	50	50	48	51	49	51	50	51	49	50
9	新見市教育委員会	51	50	49	48	50	50	51	50	51	50	50
10	備前市教育委員会	49	48	48	47	48	46	51	50	51	51	51
11	瀬戸内市教育委員会	50	49	50	47	50	48	52	50	52	52	52
12	赤磐市教育委員会	48	48	47	46	50	49	51	50	50	50	50
13	真庭市教育委員会	49	48	49	47	50	48	51	49	50	47	48
14	美作市教育委員会	50	49	51	50	49	49	51	50	50	49	47
15	浅口市教育委員会	51	52	52	51	51	50	51	52	51	51	53
16	和気町教育委員会	48	47	46	45	51	50	53	53	50	51	51
17	早島町教育委員会											
18	里庄町教育委員会	52	53	53	52	51	49					
19	矢掛町教育委員会	51	49	52	51	51	50					
20	新庄村教育委員会											
21	鏡野町教育委員会	47	48	46	46	48	47					
22	勝央町教育委員会	49	51	52	51	50	49					
23	奈義町教育委員会											
24	西粟倉村教育委員会											
25	久米南町教育委員会	52	53	55	51	53	52					
26	美咲町教育委員会	50	51	48	49	52	51	52	50	52	50	51
27	吉備中央町教育委員会	49	48	47	45	50	49					
28	笠岡市・矢掛町中学校組合											
29	県立学校							60	62	62	63	67

※　斜線の町村は、該当の学校が１校のため、公表の対象としない。
※　県立学校には、県立特別支援学校、県立中学校・中等教育学校が含まれる。
※　県立特別支援学校（小学部）は、受検者が少数であるため、公表の対象としない。

今後の取組

県教委の取組

【管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問】
- 県内（岡山市を除く）の全ての公立小・中学校を訪問し、校長作成の「学校経営アクションプラン」を基に、学力向上をはじめとする学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりに向けた取組について面談・協議を行い、管理職のビジョンと戦略を支援する。
- 年に複数回、学校を訪問し、授業参観を通じて、今後の授業改善の方向性について指導・助言を行い、学校の取組を支援する。

【授業改善の推進】
- 「学力向上担当者通信」、「県外レポート通信」を発行し、学ぶ力の育成に向けて、学校で取り組むべきポイントや他県等の取組の良いところを紹介する。
- 県内に配置している授業改革推進リーダー・推進員を中心に、校内指導体制の充実と授業改善に向けた対話のある学校風土を醸成するとともに、市町村教育委員会と連携した指導の充実を図る。
- 「家庭学習のスタンダード」、「家庭学習のスタンダード増補版」に基づいた、授業と家庭学習をつなぐサイクル（C）とフィードバック（F）の取組の実践を推進する。

【個に応じた指導の充実】
- 「学力定着状況確認テスト」、「中間期学習状況調査」を実施することで、各学校における児童生徒のつまずきや学習状況を年度途中に把握できるようにする。
- 「ふりかえりプリント集」や、個のつまずきに応じたプリントを作成できる「Web 評価支援システム」を学校に提供し、積極的な活用を促す。
- 放課後学習サポート事業により支援員を配置することで、各学校が放課後等に実施する補充的な学習指導を支援する。

【学ぶ意欲の向上】
- 各教科等での学習が、児童生徒の学ぶ目的意識につながり、意欲的に学習に取り組んでいけるよう、課題解決型の学習（ＰＢＬ）を導入して自己肯定感を高める取組を支援するなど、学びの原動力となる「夢育」を推進する。

各学校の取組

各校において、次のような学力向上に向けた取組を、市町村教育委員会と連携しながら進めていく。

【授業改善の推進】
- 「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業５の視点に加え、「岡山型学習指導のスタンダード増補版　授業改善、『一歩先へ！』（以下、「増補版」という）」に示している、児童生徒が主役となる授業づくりと全体を見通した単元計画を行う視点を重点として、授業改善を進める。
- 学力向上担当者を中心として、担任や教科担当が分析した当該学年や教科における調査結果を基に、全教員で学校全体の状況を把握し、学校組織全体で、つまずき解消に向けた取組を推進する。
- 「増補版」の視点で作成した授業観察シートを効果的に活用するとともに、一人一台端末を活用した個別最適化された学びと協働的な学びの場を研究・実践し、更なる授業改善を進める。
- 「家庭学習のスタンダード」、「家庭学習のスタンダード増補版」を活用し、授業と家庭学習を関連付けながら、短いサイクルで定着を図るサイクル（C）とフィードバック（F）の取組を実践する。

【個に応じた指導の充実】
- 「学力定着状況確認テスト」や小テスト等により児童生徒のつまずきを把握し、個に応じたプリントを用いたり、一人一台端末を活用したりしてつまずきの解消を図る。
- 放課後等を利用した補充的な学習指導を行い、児童生徒一人一人の学力の定着を図る。

【学ぶ意欲の向上】
- 児童生徒が課題を発見し、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習（ＰＢＬ）を研究・実践するとともに、「やりたいこと」や「なりたい自分」を見つけられる機会や場を設定することにより、子どもたちの自己肯定感を高め、主体的に学ぶ力を育成する。